

調布市高齢者総合計画：第1期から第9期への変遷

日本大学 内藤佳津雄

基本理念・目標の変化

第1期の基本理念

個の確立と尊重

住みたいと思う
地域環境の創造

地域社会への
参加と責任

特徴

- ・ 個人の尊厳を起点
- ・ 段階的に地域へ視野を拡大
- ・ 高齢者本人中心のアプローチ
- ・ 制度の円滑な実施を重視

パラダイム
シフト

第9期の基本理念

自分らしく暮らし続ける

認め合う共生社会

世代・属性を超えた
支え合い

包括的支援体制

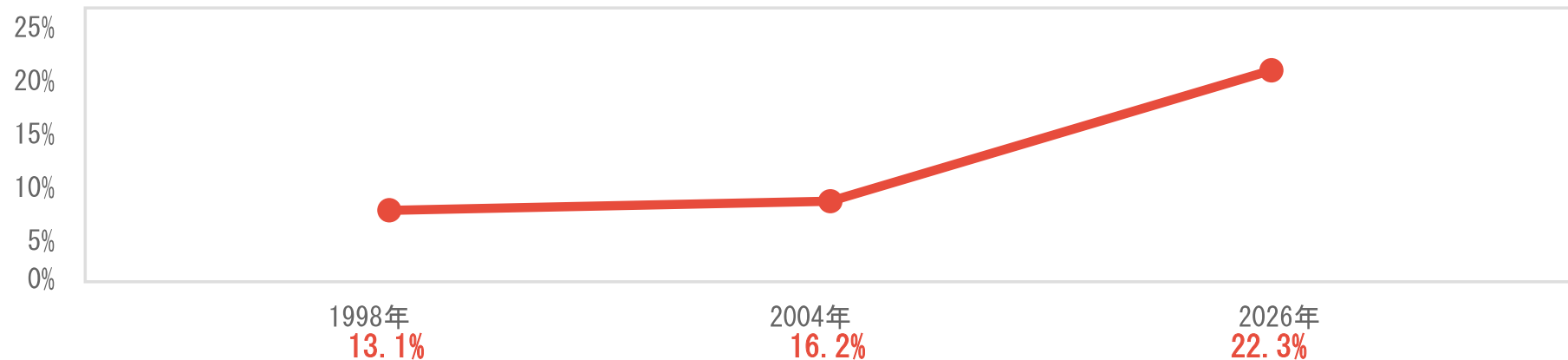
「長生きしたいと思えるまち、
長生きしたいに応えるまち ちょうふへ」

変化の特徴

- ・ 「個の確立」から「共生」へ
- ・ 高齢者のみから包括的アプローチへ
- ・ 「参加」から「支え合う」へ
- ・ 地域共生社会の実現を目指す

高齢化状況と要介護者の変化

高齢化率の推移



要介護者数の変化

第1期

要援護者数

- ・ 在宅要援護者：2,319人（8.3%）
- ・ 施設要援護者：794人（2.8%）
- ・ 合計：3,113人（11.1%）

特徴

基本的サービス需要への対応、認知症は個別課題

第9期

要支援・要介護認定者

- ・ 総数：12,347人（22.3%）
- ・ 軽度認定者の増加が顕著
- ・ 認知症高齢者の大幅増加

特徴

約4倍の増加、認知症が社会的課題に

サービス体系の進化

第1期のサービス整備

訪問介護：1,964回/週 → 6,820回/週

訪問看護：543回/週 → 1,680回/週

基盤整備率：46% → 61%

第1期の特徴

- ・ 基本的な在宅サービスの量的拡大
- ・ 個別サービスの充実
- ・ 治療・介護中心のアプローチ
- ・ 本人支援が中心
- ・ 10の福祉エリア設定
- ・ 在宅介護支援センター10か所設置

進化

量的整備から
質的深化へ

第9期のサービス整備

地域包括ケア

介護予防

認知症施策

ケアラー支援

医療・介護連携

第9期の特徴

- ・ 統合的ケアシステムの構築
- ・ 予防重視のアプローチ
- ・ 包括的支援体制の整備
- ・ ケアラー支援を含む多角的支援
- ・ 8つの福祉圏域に集約
- ・ ICT活用による効率化

地域支援体制の変革

第1期の推進体制

3つのレベル

市民による3つの活動体

- ・ 相談モニター組織
- ・ 介護支援専門員連絡協議会
- ・ サービス事業者連絡協議会

協議体（プラットフォーム）

多様な主体の連携調整

行政内部体制

計画策定・実施・評価

変革

組織から
機能へ

第9期の重層的支援体制

地域包括支援センター
(8か所)

地域支え合い推進員

協議体活動

重層的支援体制

多機関協働

変化の特徴

- ・ 機能中心の体制へ転換
- ・ 住民主体の支援を推進
- ・ 全世代・全対象型支援
- ・ 8つの福祉圏域で効率化
- ・ 包括的機能への転換

第9期における重点施策

第1期にはなかった第9期の重点施策

認知症施策の推進

- ・ 認知症サポーター養成（目標16,000人）
- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症カフェ
- ・ もの忘れ予防検診

背景：個別課題から社会的課題へ変化
認知症高齢者の顕著な増加に対応

ケアラー支援の充実

- ・ ケアラーサポーター養成
- ・ レスパイトケアの充実
- ・ ヤングケアラー支援

背景：本人支援から包括的支援へ
家族機能の変化と介護負担の増大

ICT活用の推進

- ・ オンライン会議・研修
- ・ MCS（メディカル・ケア・ステーション）
- ・ ケアプランデータ連携システム

背景：効率的なサービス提供と情報共有
コロナ禍を契機とした非接触型サービス

災害・感染症対策

BCP（事業継続計画）策定の義務化

- ・ 避難行動要支援者支援
- ・ 多様な支援ツールの確保

背景：東日本大震災・新型コロナ対応
災害時・緊急時の継続的支援体制

市民参加の質的变化と調布市の継続性

第1期の市民参加

参加の形態

- ・ 計画策定への参加（審議会等）
- ・ サービス評価・モニタリング
- ・ 苦情相談への対応

先進的取組

- ・ 「介護保険ちょうふ市民の会」設立
- ・ 市民委員の有志による主体的参画
- ・ 3つの市民活動体の位置づけ

発展・深化

20年以上の蓄積

第9期の市民参加

参加の形態

- ・ 計画・実施・評価の全段階での参画
- ・ 住民主体のサービス創出
- ・ 地域づくりへの積極的関与

具体的活動

- ・ セカンドライフ応援（104団体）
- ・ 地域支え合い推進員配置
- ・ 協議体による住民主体活動

調布市の「調布らしさ」の継承と展

継承されている要素

- ・ 市民主体の理念：「保険自治」→「地域共生社会における住民主体」
- ・ 協働の仕組み：協議体（プラットフォーム）→第1層・第2層協議体
- ・ 多様な主体の参画：民間企業、NPO、ボランティアとの連携継続

中間支援組織の重視（20年以上の継続）

調布ゆうあい福祉公社・社会福祉協議会・シルバー人材センターの継続的役割

総括：第1期から第9期への変化の本質

5つの基本的転換

個別支援 → 地域システム

個々のサービス提供から
地域全体のケアシステム構築へ

専門職中心 → 住民協働

専門職によるサービス提供から
住民主体の支え合いへ

高齢者特化 → 全世代型

高齢者のみを対象とした施策から
地域共生社会へ

事後対応 → 予防重視

要介護状態への対応から
健康寿命延伸・フレイル予防へ

縦割り → 包括的支援

制度別・分野別支援から
包括的・重層的支援へ

調布市の福祉文化：革新性から成熟へ

変化の背景

- ・ 超高齢社会の進展（高齢化率13.1%→22.3%）
- ・ 家族機能の変化とケアラー支援の必要性
- ・ 地域コミュニティの変容と新たな支え合いの仕組み

調布市の特徴

- ・ 第1期の「革新性」が第9期では「成熟」として発展
- ・ 市民参加は新規導入ではなく、20年以上かけて醸成された福祉文化
- ・ 持続可能な高齢者支援システムの構築を目指す継続的な取組